

令和7年度香川大学卒業式 学長告辞（2026.3.24）

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた6学部、計1,215名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、ご家族や関係者の皆様方にも心からの祝意とともに、学生達の勉学を今日まで支えていただいたことに対し、感謝の意を表します。香川大学校友会や各学部学科の同窓会関係者の皆様には、様々な形で彼らの学生生活をご支援いただいたことに、改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの多くは2022年（令和4年）4月に香川大学に入学されました。まだ、新型コロナウイルスのパンデミックの影響が残っていましたが、幸いにして、2023年（令和5年）5月に、新型コロナは感染法上の5類に位置付けられたことにより日常生活が戻って来ました。人と人が対面で接することがいかに重要で、いかに有難いことかを再認識する一方で、リモートと対面を組み合わせたハイブリッド型の講義や集会が普及するきっかけになりました。いつしか「アフター・コロナ」という言葉さえ聞かれなくなり、皆さんは、本来の姿に戻ったキャンパスで、懸命に勉学に励まれ、学生生活を満喫されたことと思います。

さて、卒業後、皆さんが活躍される社会とはどのようなものでしょうか。

①人口の減少、②人工知能（AI）の発達、③気候変動、④国際情勢の

激変など、大きな課題が山積し、それらが絡み合いながら同時進行しているという点で、私たちは今まさに歴史の転換点に居るといっても過言ではありません。

わが国の人口減少の主な原因である少子化については、次世代よりも現役世代を、集団生活よりも個人生活を優先する傾向が強まったことが背景にあると考えられます。人々の行動様式の変化に合わせた社会改革が十分に進んでいないのも一因だと思われれます。また、わが国全体の人口が減少するなかで、引続き、東京一極集中が進んでいることが、地方における人手不足や過疎化の進行に拍車をかけています。人手不足は、既に大きな社会問題になっており、ここ香川でも例外ではありません。これまでは当たり前のよう受けられていたサービスが徐々に困難になるなど、その影響が顕在化しつつあります。

そこで、人手不足を補うのに大いに期待されているのが、AIを始めとするDX（デジタル・トランスフォーメーション）です。特に「生成AI」の加速度的な進化は、生産性を高め、社会を大きく変えつつあります。しかし、懸念もあります。最大のものは、私たちから頭脳労働を奪い、今後、多くの職業が消滅するのではないかという危機感です。大学のような高等教育機関にあっては、難しい問題を瞬時に解き、完璧なレポートを書き上げる「生成AI」の出現は、「学修」とは何かを改めて問いかけています。

このような問題は、私たちが豊かな生活を追求し続けてきた結果生じたものと考えられることから、皆で英知を結集して解決に向けて取り組まねばなりません。

激変する現代社会で求められる人物像ですが、既成概念に捉われず、柔軟に発想することにより、課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動できる人物であることは、多くの識者が指摘するところです。今ほど若者の活躍が期待されている時代はないと思います。それは、若者の持つ新しい視点や、鋭い感性、変化に対する適応力や行動力でもって、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会変革の担い手となることが期待されているからです。皆さんは、香川大学で専門分野の学問を究めつつ、勉学以外でもサークル活動や学生プロジェクト等を通じてさまざまな経験を積み、コミュニケーション・スキルを磨いて新たな人間関係を築くことにより、人間的にも大きく成長されたに違いありません。どうか自信と誇りを持って、これからの人生の目標に向かって前進してください。皆さんの将来は、想像以上に多様であり、無限の可能性で満ちています。小さな枠に留まることなく、さまざまなことにチャレンジし、社会の期待に応えられる人になってください。

ところで、複雑な社会課題を解決に導くためには、Diversity & Inclusion、すなわち「多様性と包摂」を推進し、いろいろな方向から知恵を出し合うこと

が重要です。性別・国籍・年齢・障害の有無などの多様性を受け入れ、多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、皆が自分らしく活躍できる共生社会の実現に向けて、いっそうの取組みが急がれます。

さきほど、人口の東京一極集中に触れましたが、わが国が将来にわたって持続的に発展するためには、地方分散型社会を実現することが最良の選択肢であると提言されています。香川大学でも「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンとして掲げており、香川県及び周辺地域の社会と経済の発展への貢献は、本学の最も重要なミッションです。卒業後も香川県内あるいは周辺に留まる方はもちろんのこと、それ以外の地で活躍される方も、どうか香川を第2の故郷（ふるさと）と思い、将来にわたって繋がりを持ち続け、地域の発展にご協力いただければ幸いです。

皆さんの中には、4月から大学院に進学される方も少なくないと思います。高度化・複雑化した社会では、理系・文系を問わず、大学院で研究を通して専門分野の知識やスキルを深めることがますます重要になってきています。また、いったん就職し、社会人としての経験を積んだ後に具体的な問題意識を持って、働きながら大学院で学ぶことも特別なことではなくなってきました。香川大学では、文理融合型の「創発科学研究科」を始めとして、全部で5つの大学院と専門職大学院の研究科を設置し、さまざまな高度専門人材の育成に力を入れています。修士課程あるいは博士前期課程で学んだ後に、

博士後期課程に進学して「博士号」の取得を目指す道も開かれています。本学では博士人材の育成を強化するため博士後期課程の整備を進めており、この4月から医学系研究科臨床心理学専攻に、新たに博士後期課程を開設します。また、社会人の学び直しやリスキリングへのニーズの高まりを受けて、短期集中的に特定のテーマについて学ぶ「リカレント専門講座」を設けており、今後いっそう充実させていく予定です。人生百年時代と言われる長寿社会において、香川大学は同窓生が集う「思い出の場」としてだけでなく、生涯にわたってさまざまに活用していただける「知の拠点」であり続けることを目指しています。

最後に、卒業生の皆様の前途を祝し、そして卒業生とそのご家族、関係者の皆様方のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、告辞とさせていただきます。本日は誠にめでとうございます。

令和8年3月24日

国立大学法人香川大学長

上田 夏生